柞乃杜

秩父神社社報
柞乃杜（ははそのもり）
第 36 号
平成19年12月3日
（大　祭）

親の心得

一　赤子には肌を離すな

一　幼子には目を離すな

一　子供には手を離すな

一　若者には心を離すな

秩父神社

家庭心得

叱るにも程があり、可愛がるにも程があり

勉強させるにも程があり、六かしき事なれども

御互に其程を得度きものに候

可愛くば二ツしかりて三ツほめ

五ツをしへてよき人とせよ

幡羅高等小学校『家庭心得』
（明治三十一年四月）より一部抜粋

解説　秩父神社（35）

秩父神社権禰宜　甲田豊治

◆社殿を彩る彫刻たち

毎年秋の彼岸の明けた九月二十七日、秩父市桜木町にある札所17番定林寺の敷地に鎮座するお諏訪さまの例祭が斎行されている。私はここ数年例祭奉仕をお世話になっているが、本年たまたま奉仕員の方に御堂を案内して頂いた。その中で一風変わった彫刻が目にとまったのである。その彫刻は御堂の木鼻にあって、口から妖気のような煙状ものを吐き出していて、龍のような顔つきをしていた。以前日光東照宮を訪れた際、神職で東照宮の彫刻を研究されている高藤晴俊先生から、龍に似た彫刻では「息」・「蜃」・「飛龍」・「龍馬」などの霊獣がおり、それぞれに神秘的な力を持っていると言う話をうかがったことを思い出した。若しかするとと、思い当たる霊獣が浮かび、奉仕員の方に確認したが、その彫刻に関してよく解らないとの回答であった。

口から気を吐く「蜃」と思われる彫刻

その霊獣は、口から吐かれる気息が煙のように拡がり、そこにはあたかも建物（楼）が存在するかの様な幻覚に陥る、所謂「蜃気楼」とはこの霊獣に由来した言葉であり、「蜃」の姿が彫刻されているのではないかと思ったのである。ご存知の方がいたら是非お教え願いたい。

さて、当社においても社殿彫刻に関しての問い合わせも多いことから、今回は、神秘的な霊獣「貘」を取上げてみたいと思う。

この彫刻がどこにあるか解らない方も多いのではないかと思う。本殿と幣殿の境に「あ・うん」の姿で東西両側を向いて彫刻されており、色は白く、象ほどではないが鼻が長い彫刻がそれである。

霊獣の貘は、動物の貘とは、かなりその姿が異なり、形はクマ、鼻はゾウ、目はサイ、脚はトラ、尾はウシ、腹はヘビに似ていると言われるが、当社に彫刻された貘は、写真の様に象のような牙を持ち、腹の部分はやはり蛇腹状に施され、また眉の部分がカール状に巻毛になっていてかなり可愛らしい表情をしている。

日光・東照宮にも一番多い霊獣の「龍」に次いで二番目に多いとされる貘。その体数は78頭を数え、その内52頭は本殿内の木鼻に占められ重要な部分に施されているという。

唐の白居易の〈貘屏讃〉の序に「貘、南方山谷の中に生じ、其の皮に寝ぬる時、瘟を辟け、其の形を図すれば邪を辟く」また「此の獣、鐵と銅とを食らい、他物を食らわず」と記されている。つまり、貘の皮の上に寝れば煩わしい病にもかからず、さらに貘の形を写したものを持てば、邪気が祓われるとされた。このことから貘といえば、一般的に睡眠中にみる悪夢を食べる霊獣になっていったと思われる。

また、その次に記されていた「悪夢」以外に、鉄・銅を食べると言う部分に大変興味をひかれる。一説によると、貘はこの鉄や銅を食らうため金属が十分ある世の中では生きることができるが、ひとたび戦争など起これば鉄などは武器として供出され、その量は激減することから貘は食べ物を失い命が絶たれてしまうと言う。このことから争いのない世界つまり平和の象徴としての貘をあらわしたと言う説がある。いずれにしても、貘は私達にとって大変有難い霊獣に他ならない。

本殿東西に彫刻される「貘」

結びに、一年を占うものに、お正月の「初夢」がある。一富士・二鷹・三なすびは有名であるが、この初夢を見るにあたり、二日の晩に枕の下に宝船を描いた紙を忍ばせ、しかもその宝船の帆の部分には「宝」ではなく「貘」の文字を記す風習があるという。

来る平成二十年正月、皆様も霊獣「貘」のご利益にあやかって枕の下に宝船を忍ばせ素晴らしい夢をご覧になっては如何なものかと思う。年末社頭にて初夢札の授与を企画している。詳しくは、甲田まで。

生命（いのち）のムスビという文化

宮司　薗田　稔

近ごろは、生命について考えねばならぬと思うことしきりです。そこで今回もその思いの一端を記してみたいと存じます。

前号の本欄でも縷々申し述べたことですが、近年の世相を驚かすどころか脅（おびや）かすほどの悲惨な殺人事件が頻発し、なかでも普段はごく大人しい「普通の子」が突然に犯す凶悪犯罪が激増しているということから、これは明らかに我われが現に生きる現代社会全般の人心荒廃に起因するといわねばなりません。

一

その最たる原因のひとつが、生命について人間なればこその確かな霊的感覚を見失っていることにあります。ようするに、生命をモノ化して見える世界にだけ存在し、したがって生命は生前も死後も無関係のモノにすぎず、単に生きている自分だけの持ちモノでしかない。親であろうと子であろうと、人間どうし孤立した生きモノの集まりに過ぎず、便宜的な利害でとりあえず付き合っている他人集団であるかのような錯覚にも陥りかねない有りさまです。物体として確かめられる世界だけが事実（ファクト）で、見えずとも心に強く実感する現実（リアリティ）をおろそかにするという未熟な客観主義が人間本来の生き方まで支配するようになって、先人たちが大切にしてきた生命の霊性という人間主観ならではの実感世界のひろがりを見失っているかに思えます。人類文化がはじまって以来、人びとは当初から命の生き死にの神秘に触れ、夢に霊魂の世界を知るなかで、命が互いに孤立する物体ではなく、親から子、子から孫へと受け継がれてこその生命であるばかりか、他の無数の生物とも生かし生かされているという「結び」の霊的な働きにこそ生命の本質を実感してきたのです。

二

古来の日本では、そうした命のつながりとしての霊的な働きを「産霊（むすび）」という霊性と捉えてきました。ムスとは、産（ムス）とも生（ムス）とも書き、命が生まれる意味。ヒないしビとは、神秘な霊力を指す接尾語です。『古事記』神話に語る世の始まりには、まず世界の中心に天御中主神（アメノミナカヌシノカミ）が成り、次に男女二柱の産霊神（ムスビノカミ）（タカミムスビ・カミムスビ）が成り、この造化三神（ゾウカノサンシン）の働きで神々や国土、人々や万物が生み、生まれた世界だと語ります。

成ルもまた命が誕生する意味。またムスビも両性の「結び」による生命誕生の神秘でもあるのです。

伝来した仏教には、その根本理念に「因縁生滅（いんねんしょうめつ）」という縁起（えんぎ）の考え方があって、世の何事も因果の縁（えん）によって生滅すると教えます。いわゆる「結縁（けちえん）」とは、仏縁、奇縁、血縁、地縁、社縁を問わず、人生に因果となる「結び」の普遍原理を説くものですが、神道では、ことのほか生命のムスビを尊重して、自然の命とのつながりや、かけがえのない先祖や親子、子孫の結びつきを大切に考えるからこそ「敬神崇祖（けいしんすうそ）」の道と心得てきたのです。

三

唯一の神と人間にしか霊性をみとめようとしない海外の常識からは全

く理解されないが、たとえば日本の稲作は単なる食糧生産ではなく、稲魂（穀霊）の豊穣を祈り感謝しての文化の営みです。今でも、田植の神事や収穫感謝の新嘗の祭が全国各地に行なわれ、稲種を神霊とする祈年の祭ばかりか、農耕具さえ命と心得て年取りの行事をする習俗さえあります。インドに由来する「放生会」も、殺生の罪穢れをあがなう儀式として各地の社寺に伝えられ、漁猟を生業とする漁民たちも魚類供養を欠かしていない。うなぎ屋の鰻供養ばかりか、針供養、筆供養、人形供養もあります。日本の大学では、今でも医者を養成する医学部や実験動物を使う研究施設では献体や動物の霊を祀る祠や碑を備えている例も多い。最近知った例では、会津地方の稲作農家のあいだに駆除する病害虫の霊を慰めるという神事があって、立派な供養施設さえあるといいます。

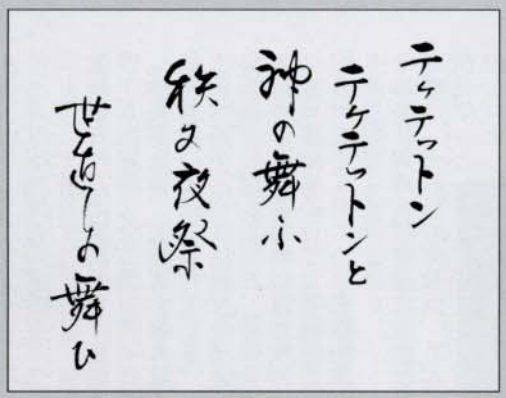
このように日本では、人が生きるために殺さねばならない万物の命に敬虔な祈りを捧げる文化が健在なのです。

結び

我が国の宗教文化には、このように神もイノチ、人もイノチ、万物もイノチという霊的な生命世界に生かされて生きることの神聖感覚が息づいてきました。

人間本来の生命感覚には、モノに孤立した生だけがイノチではなく、親が子のイノチを我がイノチと共有し、子も親のイノチの分身と思い、互いに結ばれたイノチを実感してこその生命連帯の霊性感覚なのです。

人の命も動植物の命も、物欲の犠牲に消費して止まない現代の悲惨な世相には、ムスビの神聖感覚こそ、お互いによみがえらすことが肝要ではないでしょうか。



【表紙解説】

「テケテットン・テケテットン・・」と神楽のお囃子のリズムが今にも聞こえてきそうなこの度の表紙絵画に合わせまして、当社宮司が歌を詠みましたのでご紹介致します。（絵画の構成上解説の中での掲載とさせて頂きました。）

この度の表紙絵画は、社報第28号に続き秩父神社附属神楽師で横瀬町にお住まいの新井力也様の作品「天岩屋戸開き」を掲載させて頂きました。また新井様よりこの度の絵画と併せこの神楽「天岩屋戸開き」の解説を頂きましたのでご紹介致します。

秩父神社附属神代神楽第七座「天岩屋戸開き」は、八意思兼神・天鈿女命・天児屋根命・天太玉命・玉祖命・天手力男命が登場し三十五座ある中でも代表的な演目です。

また、この絵は手力男命が満身の力を握り絞り、天岩戸を開き引抱へ、片膝をつき俯伏す様を描いたものです。そして、後方に総指揮を司る主役の八意思兼命を配した構図としました。

新井様は、昨年全国公募団体第四十六回蒼騎展において東京都議会議長賞を受賞され、また本年同蒼騎展において文部科学大臣賞を受賞し、益々これからのご活躍が期待されます。

氏子青年会報告

◆鈴木建志氏　優秀氏子青年表彰受賞

七月二十八日、福島県郡山市ホテルハマツにおいて全国氏子青年協議会第四十五回定期大会が開催され、その席上当氏子青年会第三代会長鈴木建志氏が「優秀氏子青年」の表彰を受けられました。

鈴木氏は当氏子青年会発足時から設立発起人として活躍され、会長として二期四年の実績を高く評価されての表彰でありました。表彰式では全国から参集した仲間の前で全国氏子青年協議会大澤会長より表彰状と記念品が贈られ、会場はわれんばかりの拍手で祝福されました。

◆氏青全国大会・研修旅行

氏子青年会常任幹事　坂本泰孝

七月二十八日・二十九日、福島県で開催された全国氏子青年協議会第四十五回定期大会に薗田宮司様をはじめ丸岡会長、表彰者の鈴木建志氏以下総勢二十名で参加しました。

朝六時半、バスは秩父を出発し一路福島を目指しました。研修を兼ねていることから七時には当然のように宮司様監修のDVDを視聴し、全国各地で守られている伝統的なお祭りを再確認できました。

福島に到着後、定期大会出席者は会場へ、その他の会員は、あぶくま洞見学へと分かれました。

定期大会には薗田宮司様をはじめ当会代表者十名が出席されました。表彰を受けられる鈴木元会長の姿は威風堂々たるものがり、改めて元会長の敬神崇祖の念に敬意を表する次第です。

あぶくま洞では全長六百メートル、種類と数の多さでは東洋一ともいわれる鍾乳洞で神秘的な奇石が織りなす世界を堪能致しました。

一行は定期大会終了後合流し、宿泊先である会津東山温泉へと向かい、その晩、盛大に行われた受賞の祝宴では、美味なる料理と地酒が花を添えました。

二日目は会津松平氏の庭園「御薬園」会津若松のシンボル「鶴ヶ城」を見学致しました。その後、第二の目的である会津の総鎮守伊佐須美神社を正式参拝致しました。そこで行われる御田植祭は日本三大田植祭の一つとのこと。また、非公開で行われる伝統的な神事や観光客誘致に苦労した事など伊佐須美神社の轡田宮司様のユニークな語り口に興味深く話を聞く事ができました。

そして、江戸時代の宿場の面影を今もそのままに残している山間集落「大内宿」まで足を運び昼食をとり、福島を後に帰路につきました。

今回の研修旅行では秩父宮勢津子妃殿下が松平家のご出身であることから、より会津との関わりを近く感じることができました。神社様及び幹事さんのご苦労により大変有意義な研修ができました。

◆靖國神社正式参拝

九月二十二日（土）に丸岡会長他十四名の参加を頂き、靖國神社参拝研修が行われました。

参加会員の中から、靖國神社の事を少しでも知った上で参拝したいとの声があり、当社新井君美権祢宜の講師により、勉強会を行い当日の研修に望みました。

当日は靖國神社山口権宮司様の鄭重なるご挨拶を賜り、その後正式参拝を行いました。

続いて靖國神社様のお取り計らいにより、遊就館を拝観させて頂きました。当時の戦地に赴かれた方たちの尊い犠牲と、国や家族を思う、深い思いがあったからこそ、今の日本があるんだと、改めて感じる事の出来た貴重な一日となりました。

梟（ふくろう）だより

◆知知夫彦命の剣（つるぎ）展示のこと

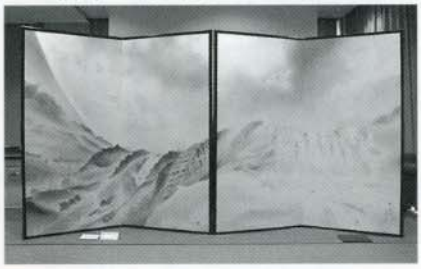
十一月九日～十一日の間、秩父・長瀞に鎮座する寶登山神社参集殿において「神武の会」主催による寶登山神社社宝展＝刀剣・武具にみる心・技・美＝が開催されました。その中に、当社御祭神に縁ある「つるぎ」が展示されましたのでご紹介致します。

国神塚出土
古刀の部
種別　「つるぎ」
全長　九十九・五センチメートル
時代　古墳時代後期（約一五〇〇年前）

伝承によりますと国神塚に眠るのは、当社ご祭神である知知夫の国造・知知夫彦命と伝わり、新編武蔵風土記秩父郡七において、国神塚の記載があり、「国津神を祀れる。・・・窟中より古刀二振・鐵鐔二枚出でたる。」と記されており、現在この古刀二振は同地の旧家に所蔵され、このたび特別に展示され神代のロマンを今に伝え、大勢の方々に御覧頂いたと伺っております。

◆「水墨会」水墨画展のこと

十一月三日～十一日の間、当社平成殿二階展示ホールにおいて、秩父市吉田在住の現代墨絵作家古舘興氏が主催する「水興会」墨絵展が開催されました。



墨の濃淡により幻想的な世界を独創的に繰り広げる主催者である古舘先生に教授された会員の出品作は力作ぞろいで、芸術の秋にふさわしく秩父を訪れた方々の目を楽しませていました。

また、今年の夏祭より境内を彩る風物詩の一つとして新たに「水興会」の皆様による行灯が設置され、夏の夜の境内が幻想的な世界へと誘う空間にご協力を頂いております。

◆柞の禊川の水占

当社境内を流れる禊川におきまして、この春より水に漬して頂きますと文字が浮き出る「水占」が参拝者の方々に大変好評頂いております。

来る新しい年も、清らかな流水にみくじを漬し、良運が授かりますことを祈念しお勧め致します。

◆秩父神社妙見講

自　平成十九年　九月
至　平成十九年十一月

九月　二日　小鹿野講
小菅健夫講元外百二十五名
九月八日　中村講
高橋信一郎講元外三百六十名
九月十五日　荒川妙見講
浅海　忠講元外七十五名
九月十六日　上町講
松本眞一講元外二百十七名
九月三十日　上宮地講
今井奎吾講元外百九十名
十月二十二日　東町妙見講
出浦義雄講元外百十二名
十一月九日　番場講
宮野前方也講元外百四名
十一月十六日　野坂講
新井永保講元外百九十八名

◆柞乃杜神前結婚式報告

宮城県仙台市　野田　将人・妙　様
秩父市下影森　竹内　康幸・智子様
千葉県千葉市　勢　芳明・祐佳様
皆野町皆野　太幡　哲也・歩　様
入間郡毛呂山町　藤井哲津也・奈美様
皆野町皆野　角平　浩一・エミ様
秩父市金室町　若林　孝幸・和美様
秩父市上町　中村紀洋・あゆみ様
神奈川県座間市　川瀬　淳・富子様
皆野町三沢　吉岡寿幸・久美子様
秩父市寺尾　桜井　康幸・知子様
横瀬町横瀬　藤原重晴・由理子様
秩父市久那　浅賀　歩・佳奈様
秩父市寺尾　関根　亮・ほまれ様
東京都文京区　宮下　義夫・真理様
秩父市番場町　猪野　知則・朝子様
秩父市荒川　町田　孝雄・芳美様
群馬県上野村　浅川　一夫・恵　様

末永く幸せなご家庭をお築き頂きますようお祈り致します。

◆職員辞令

近藤　祝子　巫女退任
（八月三十一日付）

◆ダライ・ラマ法王を表敬訪問

薗田宮司は、去る九月下旬に薗田建権禰宜を随伴し、国際宗教同士会の一行に参加してインドに渡航。ヒマラヤにあるチベット亡命政府を訪ね、ラマ仏教最高位の活仏ダライ・ラマ十四世法王に謁見して無事帰国した。

同法王は、チベット仏教を代表する聖者であるばかりか、強権的にチベット本国を中国化しつつある北京政府に抵抗する内外のチベット民族の象徴的存在であると共に、平成元年にノーベル平和賞を受賞されるなど仏教の理念に基づく非暴力と平和の実践者として世界的な影響力をもつ現代の聖者でもあられる。

今年十一月に来日して伊勢神宮を再訪される機会に同地の皇學館大學で同十八日に記念講演をされ、宮司をも交えたシンポジウムにも加わって下さる予定でもあって、宮司は予めその表敬と亡命政府の実情視察を目的に訪問を果たしたもの。

ダライ・ラマ法王日本代表部のラクパ・ツォコ代表が終始同行のお陰で亡命政府の厚遇を受け、超多忙の法王にも一時間を越える歓談を賜るなど一行七人も感激ひとしおだったとのことである。

平成二十年　戊子歳方位吉凶早見

● 本年の厄年（この前後の年が前厄・後厄に当たります）

男性	昭和59年生まれ	25歳
	昭和42年生まれ	42歳
	昭和23年生まれ	61歳
女性	平成２年生まれ	19歳
	昭和51年生まれ	33歳
	昭和47年生まれ	37歳

平成二十年は、皇紀二六六八年戊子（つちのえ　ね）年です。二十年は、上記したような方位吉凶図になり、厄年の方の生まれ年も表のようになります。また、九星では一白水星・四緑木星・六白金星・七赤金星の方々の方位が悪いとされます。ご自分の生まれた星が凶方に巡ってくる方は、厄除・方位方災除け祈願をお薦め致します。詳しくは神札授与所にご相談下さい。

◆絵画奉納御礼

秩父出身の閨秀詩人・島崎文緒さん（旧姓　薗田文子）のご好意で、平成十三年に他界された夫君の洋画家島崎樹夫氏の遺作「蘇州夕景」が寄贈されました。平成三年の中国スケッチ旅行による百二〇号の大作を広く鑑賞頂けるよう、当社では参集殿二階ホールに掲げ、同画伯の清明な画境を永くお伝えする所存です。

因みに同画伯は文豪島崎藤村直系のお孫さんに当たられます。

改めてご夫妻に御礼申し上げます。

編集後記

■平成十九年例大祭「夜祭り」を迎え、ここに柞乃杜第36号をお届け致します。

■秩父神社氏子青年会主催によります「暦の事など」についての勉強会が、十一月七日参集殿槻ノ間において開催されました。一般の方が暦に触れる機会と言いますと、年中行事や季節の挨拶を確認する時、またお祝い事の吉日を選ぶため六耀（大安・友引など）からその日柄を決めるために用いる程度ではないでしょうか。

そもそも暦の成り立ちは、太陽や月そして星の運行を観測して季節や年、月、日をあらわし、それに加え日の出・日の入り、潮の干満の時刻、さらには暦注（日の吉凶）を記載して、一日一日の日の連なりを正しく数えることを意味していたものと言われております。

■いにしえから日本の四季折々の風土の中で培われ、生み出された貴重な知識の結晶である暦。その暦をもう一度見直して、来年は十二支の始まりの子歳です。皆さんも何か新しいことに挑戦する年にしては如何でしょうか。

※本報の用紙はグリーン・ユトリロマット100の再生紙を使用しています

平成十九年（二〇〇七）十二月三日
編集　発行　秩父神社社務所
〒三六八―〇〇四　埼玉県秩父市番場町一―三
TEL（〇四九四）二二―〇二六二
FAX（〇四九四）二四―五五九六
印刷所　有限会社　拡文社印刷所
〒三六八―〇〇四二　秩父市東町二七―八